旅行とは感動を売る産業である。旅という行為の提供者は、真の感動を知っている者でなければならない。私はこの平戸という島でたくさんの感動をして育ち、UWCでその感性は肯定され強くなり、今さまざまな感動を他者と分かち合うことが仕事になっている。重要なのは人間のいちばん脆くてやわらかい部分、誰もが持っていた純粋な心、これを失わずに保持する能力である。「きれいごと」を「現実」にする作業には、美しき思い出の支えが要る。UWCや平戸という環境は、私に世界を信じ続けるに足るたくさんの美しい事実をくれた。

あらゆるものが世界中から手に入るとされる現代だが、実際は先端的社会層の持つ需要に応える「時間商品(旅行・教育)」、職場や生活の場など「社会的空間」の提供は未だ不十分である。最も優秀な若者たちは既存の社会的環境に満足しておらず、必然的にこの場所に集いはじめている。豊かな感性と現実的諸能力を併せ持つ彼らゆえに、この土地の魅力を最大限に受信・発信することができる。私たちはこの土地を使って「世界そのもの」の美しさと希望を、訪れる人々に伝えることに成功しているのである。

2年目の「世界一」受賞を支えた若者たち
(UWCカナダ校出身)

世界でいちばんの学校を創りたい

今年も私たちは再び「世界一」になった。国内外のキーパーソンが、この出来事を共に活用すべく動きはじめている。学生に限らず社会の最も優秀な層の若者たちが無形のネットワークを築きつつあり、それを支援する経験豊かな大人たち(かつての若者たち)のネットワークもまた存在する。今回の出来事は氷山の一角であり、このようなニュースは今後きっと増える。

私たちは今後、一連の出来事を通して確信した「何か」を次代の若者たちと分かち合うための「学校」を創ろうと夢見ている。世界でいちばんの学校に行かせてもらった私たちには、そこで知った喜びを他者と分かち合う義務と「欲求」がある。UWCとは二十世紀人類の悔恨と願いが込められた場所であった。人材育成とは、次代への手紙である。UWCという手紙は、確かに読み継がれている。

末尾となりましたが貴重な体験を下さったUWC日本協会、日本経団連関係者の方々に深く御礼申し上げます。ご恩は必ず次代にお返しいたします。

中央公論 1月号 発売中！ 定価800円(税込)
〒104-8320 東京・京橋2-8-7 TEL 03-3563-1431 中央公論新社
特集 間違いだらけの昭和史
昭和恐慌、正しかったのは高橋是清か、井上準之助か 竹森俊平
平等社会を求めた国民が戦争を呼び寄せた 井上寿一
田母神論文を生み出した自衛隊の構造的問題 小川和久
弾圧された右翼ジャーナリズム 佐藤卓己
陸軍は本当に敵を知らなかったのか 一ノ瀬俊也
座談会 この時代の生き方の処方箋 加島祥造×板橋興宗×鎌田 實
〈特集〉危機の時代、どうする日本 田原総一朗ほか
特集 オバマと変貌するアメリカ 久保文明／阿川尚之ほか
自分の身は自分で守る—病院の選び方、塾の利用法—

人材育成とは次代への手紙である

～「国際的人材」その先を行く若者たち

国際教育事業コーディネーター
Nagasaki Islands School of Natural and Intercultural Studies
（学校外教育プログラム提供）
小関　哲（おせき　さとし）

一九九六年ＵＷＣ奨学生（英国アトランティック・カレッジ）、二〇〇三年京都大学法学部卒業、二〇〇四年カナダにて野外活動指導者のトレーニングを受け独立、現在にいたる。長崎県平戸市出身

●㈳ユナイテッド・ワールド・カレッジ（ＵＷＣ）日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるＵＷＣの日本委員会として、毎年一〇名前後の高校二年生を世界各地にあるＵＷＣ傘下の高校に派遣し、すでに四二四名の卒業生を輩出している。

「世界一の修学旅行」をつくった若者たち：「潜在的人材層」の存在

二〇〇七年夏、日本の西端で生まれた小さなニュースが静かに広まりつつある。世界最大級の教育旅行派遣団体「ピープルトゥピープル（アイゼンハワー大統領創設）」は同夏二万七〇〇〇人を超えるアメリカ人中高生を世界各国への「修学旅行」に派遣したが、その中で日本・長崎県コースが世界四八コース中二位以下に大きく差をつけて「世界一」の評価を受け、表彰された。(注)厳密には「世界最高」評価を受けたのは二週間の旅行全体ではなく平戸・小値賀島（おぢかじま）地域を舞台に行われた五泊六日のプログラムであったが、これをゼロから立ち上げ運営したのは旅行社に委託を受けたＵＷＣ卒業生を中心とする数人の若者たち（当時一七～一八歳の現役生を含む）だった。

この出来事は、二十一世紀という時代を読む上で重要な情報を含んでいる。「旅行商品」としての日本が評価を受けたことの背景に、日本という「素材」を世界最高の「商品」に仕上げた若者たちの存在がある。たった数人の若者たちが各国の大企業を押しのけ、リアルなビジネスにおいて消費者の圧倒的評価を得た。彼らは日本社会がまだ知らない、次代を拓く希望としての「潜在的人材層」の一例である。

要はＵＷＣ卒業生レベルの「国際的人材」が鍵なのだという解釈は、この出来事の本質を突かない。ＵＷＣはなるほど世界最高レベルの国際教育機関であろう。しかしグローバル時代の現在、「英語力」「国際感覚」というのは、たとえば江戸時代における〝読み書き算盤〟程度の能力にすぎない。ＵＷＣの本質は、若者の世界に対する「希望」が肯定され促進される良き土壌にある。今回私たちＵＷＣ卒業生が発揮したのは、英語力や国際センス以上に、その土壌で培ったきわめて人間的な能力である。

ピープルトゥピープル参加の学生たちと（中央が筆者）

アメリカの若者の心を掴んだもの

日本の端にある私たちの島には、いろんな人たちが訪ねて来る。若者だけでなく子どもたち、社会でそれなりのポジションにいる方々、いわゆる文化人や著名人と言われる人々も繰り返し訪れて来る。アメリカの若者たちはまるで恋に落ちたかのように私たちの土地や人々を愛し、再訪を誓い、涙を見せて去っていった。毎日のように送られてくる数百人のアメリカの若者たちからの情熱的なＥメールは、夏が過ぎた今も途切れることがない。何が人々の心をそんなにも掴むのか。

（注）NPO法人おぢかアイランド・ツーリズム協会HP内
http://nozakijima.jp/jisseki/jisseki.htm/